



令和6年 3月 1日
目黒区立ひもんや保育園

寒暖差もありますが、日差しの暖かさに春の訪れを感じるようになりました。

クラス懇談会には多くのご出席ありがとうございました。保護者の皆様といろいろな制作や積み木遊びをしたりしながらお子さんの話ができて楽しい時間となりました。スライドの中では子どもたちの成長を感じ、どのクラスの子も1年を通して心もからだも大きく成長したことを実感しました。園庭で遊ぶ姿からは、1歳児クラスの子どもたちが自分で開けられなかった水道を今では自在に開け閉めできるようになり、容器に水をたくさん溜めて運べるくらいになっています。先月お伝えしたクラスのパン屋さんごっこも年長クラスの子どもたちが続けていて、1、2歳児クラスの子どもたちは「今日はパン屋さんあるかなと」楽しみに園庭に降りてくる姿はとてもかわいいです。年長の子どもたちの手によって少しずつ改良されてきているパン屋さんが開店すると、小さい子たちが買いに来て、自然な異年齢の関わりも多く見られています。遊びの継続が子どもたちの成長につながっていると感じます。

今月は年長児が卒園を迎えます。どの子も楽しい思い出を胸に、就学、進級へと向かってほしいと思っています。



3月の行事

卒園式（5歳児クラス）

お別れ遠足（5歳児クラス）

お別れ遠足（3・4・5歳児クラス）

お別れ会（全園児）

保育準備日

中旬 身体計測・避難訓練



もうすぐ卒園 ひまわり組



好きな給食ベスト3

- ① カレーうどん
- ② カレーライス
- ③ 肉味噌うどん

保育園で楽しかったことベスト3

- ① ドッジボール
- ② すずめばちごっこ
- ③ からすのパン屋さん
鉄棒

ひまわり組（5歳児クラス）

ドッジボールが日課になっています。園庭がひまわり組だけになると「よし、ドッジボールやろう」と誘い合い、地面に踵で線を描き始める子、ペットボトルに水を入れに行く子と自然に役割分担し、自分たちでドッジボールのコートを作り上げます。毎日本気の勝負で、勝って喜び、負けると涙を流して泣いています。仲間が当てられて悔し泣きしているとそっと側に行き「大丈夫、また当てたら入れるから」と優しく励まし、その子が内野に戻れるようにボールをパスする姿も見られるようになりました。春から繰り返し楽しむ中で、自分が沢山ボールを投げることができれば良いのではなく、“チームが勝つために”と考え相談したり、仲間が強いボールをキャッチすると「よし！」と自分のことのように一緒に喜んだり、友達の気持ちに寄り添える姿になりました。

つくし組（0歳児クラス）

散歩先の芝の斜面にある段差をよじ登ろうとしている子がいました。保育士が少しお尻を支えてあげようとするとその手を振り払い“じぶんで”と意思表示をし、もう一度初めから手をかけたり足をかけたりしながら、なんとか登ろうとしています。保育士が「よっこいしょ」と言うと子どもも「…っしょー」と腕に力を込めて、足をかけよじ登ることができると“すごいでしょ”と得意な表情を浮かべています。保育士が「高いね。すごいね。」と言うと、“もう一度”と何度も挑戦していました。いろいろな発見や感じた事を保育士と一緒に面白がったり不思議に思ったりと子どもたちの思いに寄り添いながら探索遊びを見守ってきました。子どもたちも安心できる保育士とのかわりの中で“自分で”“やりたい”と意欲も育ってきています。

すずらん組（1歳児クラス）

園の門の前に、ごみ収集車が来ることを心待ちにしている子どもたちです。清掃員さんがごみを入れる様子をじっと見ています。清掃員さんともすっかり顔なじみになり、最後は「バイバイ」「タッチ」とお見送りをするのが日課になりました。そこで、再現遊びができるように段ボールでごみ収集車を作りました。早速運転席に座り「バイバイ」と手を振ったり、ごみ収集車の中にビニール（ごみのつもり）を投げ入れ、ごみを入れる扉を動かしながら、「（ごみ）パクパクしてるの」と気分はすっかり清掃員さんです。子ども達の興味関心のあることに環境を整え、一人ひとりが好きな遊びを繰り返し楽しめるようにしてきました。友達の遊びを真似して遊ぶ姿もでてきて「〇〇ちゃんと一緒に遊びたい」という気持ちも芽生えてきています。

ちゅうりっぷ組（2歳児クラス）

節分行事で幼児クラスの子が鬼の面をかぶり「おにだぞ」と登場したので、ちゅうりっぷ組の子どもたちも「鬼は外」と新聞紙で作った豆をまきました。翌週一人の子が普段はアイスクリームのコーンとして使っている円錐型のフェルト玩具を逆さにすると、鬼の角に見えることに気付いて「これで鬼やりたい」と言って、頭に巻いた布に角のようにフェルトをつけました。鏡の前で自分の姿を確認すると「鬼だ」と嬉しそうです。鬼になって室内を歩き、友達にビーズを入れた器を「はい、これ投げてね」と手渡しています。渡された友達は「鬼は外」と投げる真似をし、鬼役の子は「わ～、にげろ」と隠れ、繰り返し楽しんでいました。経験したことを再現したり、保育士や友達とイメージを共有したりして遊びを楽しむ中で友達との関わりも広がっています。

たんぽぽ組（3歳児クラス）

ひとりの子が縄でフープをつなげて電車を作り運転していると「入れて」と他の子もやってきました。後から来た子に「前（運転席）に乗りたくない」と言われると、電車を作った子が困っています。その表情を見て「じゃあ後ろに乗るよ」と後から来た子が言っていました。側で見ていた子も空いているフープに乗り込み、無事に出発です。しばらくすると運転手さんが「前に乗ってもいいよ」と自分から譲ってあげていました。保育士はみんな運転手になりたいので、困っていたら助けに入ろうと思いつきながら様子を見ていましたが、子ども同士で「前に乗りたい」「どうしようかな」「代わってあげようかな」等とやりとりをしていました。友達と一緒に遊ぶ楽しさや心地よさをたくさん経験する中で、友達の思いに気づけるようにもなった子どもたちです。

こすもす組（4歳児クラス）

園庭で「みんなでアスレチック作ろうよ」と、友達を誘い、いろいろな道具を組み合わせで「ここ、こうしたらどう」「これもいいかな」と友達と一緒に試行錯誤しながら形にしています。滑り台を作りたいとマットを斜めに立てかけると「ここはジャンプ台にしたい」「でも狭いから二つは作れないよ」「じゃあ、別の所に作る」と、イメージを出し合う中で自分の思いを伝えるだけでなく、考えながら友達の気持ちに気づき、どうしたらいいのか考えたり、時には伝えたい思いがいっぱいで強い口調になってしまうと「そんな言い方は悲しいよ」と、仲裁に入ったりする姿も見られるようになりました。一人ひとりが自分の思いを伝え合える関係を大切にしてきました。友達との繋がりも深まり、意見を出し合いながら工夫して遊ぶ姿に成長を感じています。